

新潟港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども新潟港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、港湾及び海岸の整備と振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



新潟港カーボンニュートラルポート形成への取組

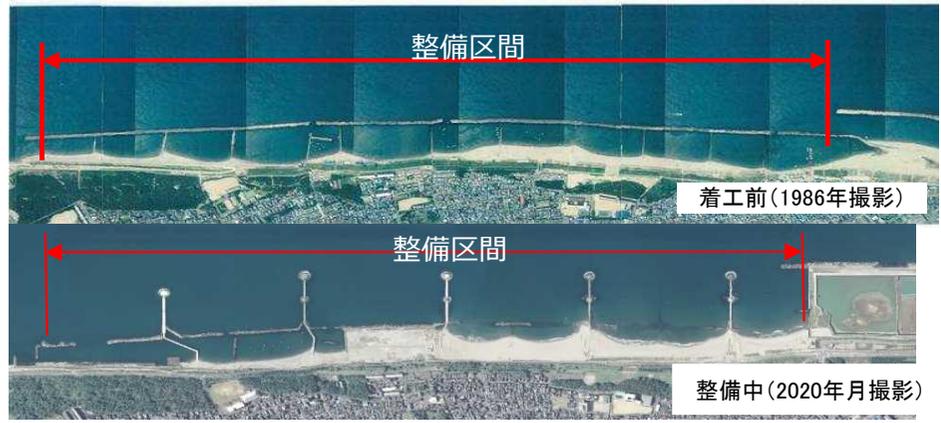
新潟港湾・空港整備事務所では、国際サプライチェーン拠点かつ産業拠点である新潟港において、新潟県と共同し、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて「カーボンニュートラルポート(CNP)」を形成し、我が国全体の脱炭素社会の実現に貢献していくこととしています。CNP形成計画の策定に向けて、新潟県で設置する「新潟港CNP形成協議会」に参画し、CNPの形成に向けた検討を新潟県と連携して進めます。

【目標】 2022年度:検討協議会を立上げ、新潟港CNP形成計画の策定 → 計画目標達成に向けた取組



新潟西海岸再生への取組

新潟西海岸は、明治以降の河川改修や河口突堤築造等の影響により、昭和60年迄に海岸汀線が最大350mも後退しました。そこで、面的防護工法(沖合に築造する潜堤、砂浜から直角に伸びる突堤、人工砂浜(養浜))を採用し、海岸侵食の防止、広い静穏水域と砂浜の再生による親水空間の創出に取り組んでいます。



新潟港(東港区)防波堤(西)の整備

新潟港東港区は、国際海上コンテナターミナルの立地等、新潟県および背後圏域の物流を支えています。東港区の第一線防波堤である防波堤(西)は、堤体前面の洗掘による波高増大により、過去2度の被災を受けており不安定な状態にあるため、航行船舶の安全を保つことを目的に、1980年度より改良事業(2,578m)を行ってきました。現在は、消波被覆ブロックの据付工事等を行っています。



伏木富山港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

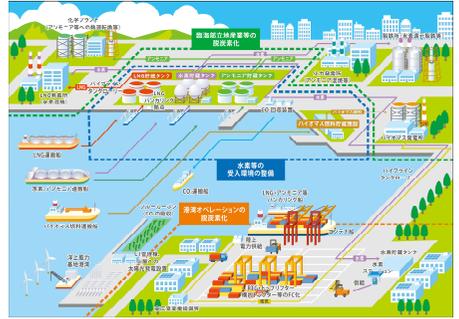


私ども伏木富山港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、伏木富山港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



伏木富山港カーボンニュートラル形成への取組

伏木富山港湾事務所は富山県や民間企業と共同で脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて「カーボンニュートラルポート(CNP)」を形成し、我が国全体の脱炭素社会の実現に貢献していくこととてしています。
伏木富山港CNP形成計画の策定に向けて、富山県が設置する「伏木富山港CNP検討協議会」に参画し、官民連携してCNPの形成に向けた検討を進めます。



CNPイメージ(出典:国土交通省港湾局)

【目標】 2021年度:検討協議会を立上げ → 2023年度:伏木富山港CNP形成計画の策定 → 計画目標達成に向けた取組



総合学習・出前講座の実施

高岡市ならびに射水市では、市内の小学5年生を対象に暮らしを支える「みなと(港湾)」の仕組みや役割についての知識を深め、地域を学び・理解してもらうことを目的とした「みなと見学会」及び「みなとの出前講座」を実施しており、当事務所職員が講師として協力しています。



【目標】 2022年度:13校 → 2030年度:38校



新湊地区 中央ふ頭再編整備の推進

伏木富山港新湊地区中央ふ頭では、船舶の大型化、取扱貨物の増加による滞船を解消するため、中央2号岸壁の増深改良(水深14m化)を行うとともに、係留施設の老朽化対策、貨物の集約、ふ頭用地の利用方法を見直すなど、ふ頭の再編を推進しています。



金沢港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども金沢港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、金沢港・七尾港・輪島港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



金沢港・七尾港カーボンニュートラルポート形成への取組

金沢港・七尾港では、次世代エネルギーの受入環境整備や脱炭素化に配慮した港湾ターミナル内の港湾機能の高度化等を通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロを目指す「カーボンニュートラルポート」の形成に向けて、官民一体となった協議会を立ち上げ検討を進めており、両港におけるカーボンニュートラルポート形成に向けた取組について、必要な支援を行って参ります。

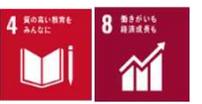


荷役機械のハイブリッド化



船舶への陸上電力供給

【目標】 2022年度: 検討協議会を立ち上げ、金沢港・七尾港CNP形成計画の策定 → 計画目標達成に向けた取組



総合学習・出前講座の実施

金沢港湾・空港整備事務所では、「みなと」が地域に果たす役割や、当事務所が行っている事業や防災に関することなどについて紹介させていただく「総合学習支援」を実施しています。総合学習は出前講座等による「みなとの紹介」等のほか、「港湾業務艇: わかなⅡ」による海上からの「みなと見学」といった取組を実施しています。



【目標】 2022年度: 4回 → 2030年度: 12回



金沢港大野地区西防波堤の改良

金沢港大野地区においては、2009年度から、港内の航行船舶の安全性、利便性の確保、および防波堤の安定性を確保するため、西防波堤の改良を行っています。2022年度からは、近年の気象状況を考慮した高波に対応した改良を行っています。



敦賀港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども敦賀港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、敦賀港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



鞠山北地区 防波堤・護岸(防波)の改良

敦賀港の防波堤および護岸は、港内静穏度の確保を目的として、1981年度より整備を進めています。近年の気象変動による波浪増大や施設の老朽化に対応するとともに、港内静穏度の更なる向上を図るため、防波堤および護岸の改良工事を実施しています。

これにより国民生活と経済を支える海上交通ネットワークの強靱化を進めて参ります。



位置図



総合学習・出前講座の実施

敦賀港湾事務所では、港の役割や国で行っている工事について広く知っていただくために、小中学校の「総合学習」や「出前講座」を随時受け付け、敦賀港の紹介をしています。また、学生や報道関係者を対象とした「現場見学会」なども実施しています。

港には、物流・人流などの利活用面の機能や、社会資本整備としての歴史・技術的な知見など、様々な学習コンテンツがありますので、希望に応じた説明をすることが可能です。



【目標】 2022年度:3回/年 → 2030年度:6回/年

私ども新潟港湾空港技術調査事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、港湾及び海岸の整備と振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

13 気候変動に具体的な対策を
近年の気象状況を考慮した設計

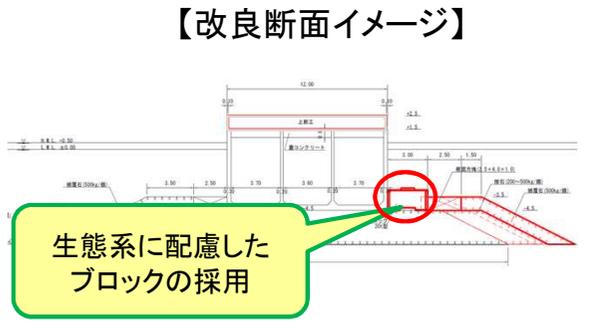
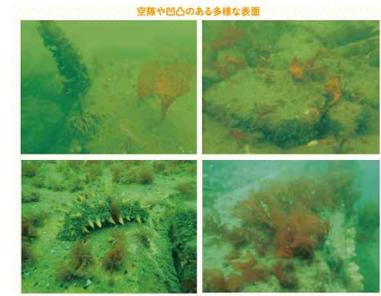
近年、台風による被害が頻発化・激甚化している状況であり、例えば2019年の台風第15号・第19号では、横浜港や東日本において、高潮・高波による護岸の損壊や背後地の浸水といった甚大な被害が発生しました。
 そのため、最新の波浪観測データや波浪推算手法を用いて、各港の推算沖波の見直しを行い、施設の設計に反映します。
【目標】 2022年度:5施設 → 2030年度:8施設



① 土砂堆積+パラペット倒壊

15 陸の豊かさも守ろう
生態系に配慮した設計

伏木富山港(新湊地区)波除堤は、度重なる偶発波浪を受け、堤頭函の滑動などの被災が発生しており、港内側の補強が必要となったことから、その補強材料として、海の生態系に配慮したブロックを用いた防波堤の改良設計を実施しました。これにより、藻場礁や増殖礁として期待でき、更には多様な生物の生息が見込まれます。また今後は管内の他施設にも適用を検討しています。
【目標】 2022年度:1施設 → 2030年度:4施設



4 質の高い教育をみんなに **8 働きがいも経済成長も**
実験場見学会の実施

新潟港湾空港技術調査事務所では、「みなと」について関心を持ってもらい、「水理実験場」の役割、仕組みなどについて、地域の皆様に幅広く理解していただくため、実験場の見学会を実施しています。
 国内最大級の水理実験場で模型を設置できる平面水槽では、異なる三種類の波を目の前で見学することが可能です。
【目標】 2022年度:300人/年来場 → 2030年度:1,000人/年来場

